

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2004-525137(P2004-525137A)

【公表日】平成16年8月19日(2004.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2004-032

【出願番号】特願2002-574924(P2002-574924)

【国際特許分類第7版】

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/09

A 6 1 K 7/11

【F I】

A 6 1 K 7/06

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/09

A 6 1 K 7/11

【手続補正書】

【提出日】平成15年5月21日(2003.5.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

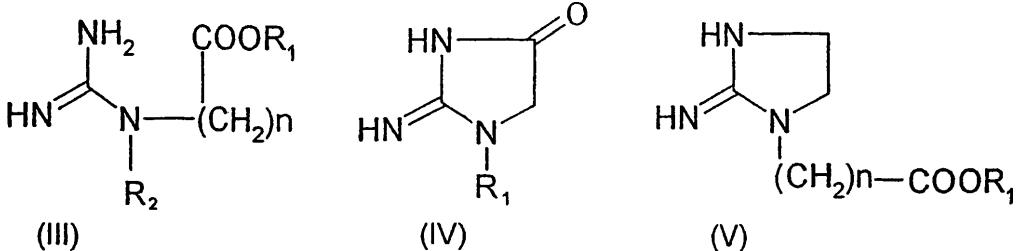
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ケラチン繊維の硬化、強化および構造回復、再生あるいは安定化のための薬剤、あるいはケラチン繊維の体積の改善のための薬剤における、クレアチン、クレアチニンおよび/あるいはこれらの塩および/あるいはこれらの誘導体の使用であって、クレアチン誘導体あるいはクレアチニン誘導体は下記一般式で表される化合物の中から選択されることを特徴とする使用。

【化1】



(ここでR₁およびR₂は、互いに無関係に、H、-CH₃、-CH₂CH₃あるいは直鎖あるいは分枝鎖C₃ないしC₂₂のアルキル基を意味し、n=1あるいは2である。)

【請求項2】

クレアチン、クレアチニンおよび/あるいはこれらの塩を使用することを特徴とする、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

クレアチン誘導体あるいはクレアチニン誘導体および/あるいはこれらの塩がクレアチン

ホスヘート、シクロクレアチン、ホスホシクロクレアチン、グアニジン-アセテート、3-グアニジンプロピオン酸、グアニジン-アスコルベートおよびクレアチン-ピルベートの中から選択されることを特徴とする、請求項1に記載の使用。

【請求項4】

疲労および/あるいは損傷したケラチン繊維における、請求項1ないし3いずれか1項に記載の使用。

【請求項5】

ケラチン繊維が化学的および/あるいは物理的有毒物に曝される前に、曝される間に、あるいは曝された後に、薬剤をケラチン繊維と接触させることを特徴とする、請求項1ないし4いずれか1項に記載の使用。

【請求項6】

ケラチン繊維の化学的および/あるいは物理的処理の前の前処理剤における請求項5に記載の使用。

【請求項7】

ケラチン繊維の再生(構造回復)に対して、あるいはケラチン繊維の内部構造の損傷回避あるいは予防に対する、請求項1ないし6いずれか1項に記載の使用。

【請求項8】

化学的処理に染色、調色、脱色あるいはパーマネント加工が含まれることを特徴とする、請求項1ないし7いずれか1項に記載の使用。

【請求項9】

反応しやすい、脆弱なおよび/あるいは細いケラチン繊維の理容処理に対する請求項1ないし8いずれか1項に記載の使用。

【請求項10】

ケラチン繊維の体積増大あるいは実質量増大に対する請求項1ないし9いずれか1項に記載の使用。

【請求項11】

クレアチン、クレアチニンおよび/あるいはこれらの誘導体および/あるいはこれらの塩が、薬剤中、全重量に関して、0.001ないし30.0重量パーセント含有されていることを特徴とする、請求項1ないし10いずれか1項に記載の使用。

【請求項12】

クレアチン、クレアチニンおよび/あるいはこれらの誘導体および/あるいはこれらの塩が、薬剤中、全重量に関して、0.05ないし1.0重量パーセント含有されていることを特徴とする、請求項1ないし11いずれか1項に記載の使用。

【請求項13】

薬剤が溶液、乳化液、泡、クリームあるいはゲルの形態で提供されることを特徴とする、請求項1ないし12いずれか1項に記載の使用。

【請求項14】

ケラチン繊維が人毛であることを特徴とする、請求項1ないし13いずれか1項に記載の使用。

【請求項15】

薬剤を20ないし60の温度において1ないし60分間ケラチン繊維と接触させることを特徴とする、請求項1ないし14いずれか1項に記載の使用。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

これらの他に有用な物質として、クレアチン-ホスヘート、シクロクレアチン、ホスホシクロクレアチン、グアニジン-アセテート、3-グアニジン-プロピオン酸、グアニジン

- アスコルベートおよびクレアチン・ピルベートが挙げられる。